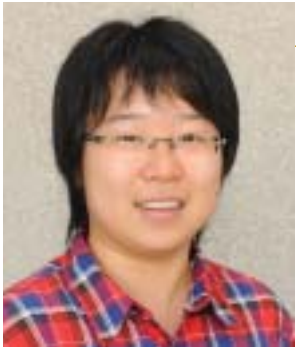


中西 純さん

受講生／東京都渋谷区



大学で日本古代史を専攻していることから興味を抱き参加した。5日間、いろいろな人とめぐりあい、現地で直接見たりふれたりしたことで、多くのことを感じることができた。特に、鬼ノ城の研究を深めてみたいと感じた。

吉田 恵美さん

受講生／千葉県船橋市



千葉県内の大学で働いている。学生たちにいただいた資料を展示して見せたり、歴史関係のサークルに働きかけたりして、総社を紹介したい。近く予定されている私の中学時代の同窓会でも、みんなに教えてあげようと思っている。

川野 裕一郎さん

受講生/東京都杉並区



多くの出会いがあり、歴史の深さ、重厚さを実感できた。5日間で、“行って良かった”と言ってもらえるだけの場所だと肌で感じたので、自信をもって人に勧められる。一人でも多くの人に知ってもらいたいと思う。



宝福寺で小鍛冶元慎住職の講話を熱心に聞く受講生

求められる
市民力

神崎さんが設定した20の講義。鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺の歴史遺産をはじめ、座禅、備中神楽、精進料理、総社の歴史などを、受講生は見て、体験して理

解を深めました。備中温羅太鼓の代表曲で、鬼ノ城に伝わる温羅伝説を題材にした「温羅」の迫力ある演奏や、備中神楽の舞を間近で体験。太鼓を

たたいたり、神楽の衣装を着たりするなどし、総社の郷土芸能にふれました。宝福寺では、座禅堂での座禅体験や修理中の庫裏の見学を行いました。柱に縛

みんなの力を結集した観光へ

られた雪舟さんが涙でネズミの絵を描いた逸話を紹介した小鍛冶元慎住職は講話で、「観光の『観』は、本質を掘り起こしていく気持ちで見ること」と、受講生を激励しました。

古代吉備の着衣をテーマに、染物や織物、ガラス玉作りの体験の3講義を開きました。楽しみながら総社にちなんだ物づくり体験を展開できないかと、主催者側の試行の意味も込めた講義。「物づくり体験は、これだと言える総社の食べ物などとともに観光要素の重要なものであり、実証や研究を進めたい」と、商工観光課は話します。

を身近に感じられる特性を生かしては」などに対し神崎さんが、「結論を急ぐ必要はない。『生活感覚』を一つのフィルターとして、皆さん一人ひとり柔軟な姿勢で考えを進めてほしい」とまとめました。これらは、私たち市民も考えなければならぬ課題です。

最終日には受講生一人ひとりが、これまでの受講内容をふまえ「古代吉備」をテーマに発表。「伝承・伝説と史実のあり方を明確にしては」「歴史と古代ロマン

発表のなかで、東京から参加した住田絵里紗さんが、「総社の皆さんも、私たち同様にもっと総社を知ること努めれば、観光に結びつくのでは」と提案。小鍛冶さんも「見る側と見る側との思いが合致していて成り立ち、安らぎや喜

びを感じた人がリピーターになるのでは」と、受け入れ側としての姿勢も重要だと話します。

この大学の学長を務めた市長は入学式で、「官民一体のこの事業で、総社観光のプロフェッショナルになり、伝道師となる皆さんに、総社がもつ観光資源の本質を全国に広げてもらいたい」と、受講生を迎え入れました。その本質を私たちみんなの力で磨きあげ、伝道師がまいてくれる種を大きな花に育てましょう。

問い合わせ 商工観光課 観光プロジェクト係 ☎ 8277



① 備中温羅太鼓のメンバーと太鼓をたたく体験をする受講生 ② 草木染めの手法で染物体験をした。完成した品を披露 ③ 入学式であいさつした市長は、引き続き行われた事始の講義の講師も務めた ④ 鬼ノ城の見学のときに、市内を一望できる学習デッキから、総社の地形やまちの様子を見る受講生 ⑤ すべて総社産の食材で作られた夕食。アユや玉どうふ、ピオーネなどが見える

総社 観光大学